

アレッポ戦でのアメリカの露骨なウソ宣伝：

アルカーイダを支援し、テロリストを“自由戦士”と呼ぶ

(付：偽プロパガンダ・テキスト)

【訳者注】これも、一つ前の「ISIS の爆撃に見せかけたモスルにおけるアメリカの終末」と併せ読んでいただくと、わかりやすいだろう。アメリカのやり方はいつも同じである。自分がやっておいて他者（敵）がやったと主張する（または見せかける）、いわゆる **false flag operation**（ニセ旗作戦）である。これは 100 年以上昔の米西戦争からの、アメリカの伝統的作戦で、その典型である 9・11 テロ以来、かなり一般に知られるようになった。にもかかわらず、彼らはこれを使い続けていて、西側メディアもあえて疑わない体を取り続けている。

今回初めて知ったのは、米 - NATO が、傭兵とともに、NGO を雇って現地に潜り込ませ、ニセ情報を発信させていることだった。これは悪質であり、アンダーソン博士の著書のタイトルに言う通り、「ダーティー」の極みであろう。こういうやり方は——彼らの過去の実績がほとんどそうであるように——隠しきれなくなったとき、どう対処するつもりだ、と我々は心配するが、彼らは大して気にもしていないように思える。

先日の NHK ニュースで、ジョン・ケリー国務長官が、“ロシア - シリアの病院爆撃”を怒っていたが、彼はティム・アンダーソンのような事情通ではおそらくない。

Prof. Tim Anderson

Global Research, May 1, 2016

アレッポでの、シリア軍とその同盟軍（ロシア、イラン、ヒズボラ、その他）と、サウジ - トルコ - NATO に支援されたテロリスト集団（アルヌスラ、Jaysh al Islam、偽 Ahrar、および ISIS）の間で戦われている戦略的戦いには、露骨なウソ宣伝が使われている。

4 月末、この武装集団が、シリア第二のこの都市に何百というモルタル弾を撃ち込み、シリア軍が長く待ち構えていた応戦を始めると、戦争はエスカレートしていった。

西側メディアは今、アレッポ市民は、シリア軍からの脅威の下に置かれていると言い、シリアの情報源は、市民たちは絶え間のないモルタル弾攻撃から逃げまどっていると言い、シリア軍がテロリスト集団を根絶するように要求している。



米 - NATO - イスラエルに支援された
アルヌスラ・フロント

ワシントンは道徳的な見せかけのために、代理（傭兵）軍団とともに代理 NGO を用いて、シリア軍は自国の市民を攻撃することしかやっていない、というフィクションを押し通そうとしている。

こうした NGO（非政府組織）の中で目立っているのは“**The White Helmets**” 別名“シリア市民防衛団”で、これが、シリアとロシアの飛行機が病院を標的にしているという主張の、主たる出所になっている。

“ホワイト・ヘルメット” 団は、独立した組織だと主張しているが、実は、ウォール街が創り出し、米政府が共同支援しているもので、もと英兵 **James le Mesurier** に率いられ、国連安保理によって禁じられたテロ組織アルヌスラの中に入り込んでいる。

したがって、アルヌスラに対する攻撃はすべて、“市民” や治療所、あるいは緊急医療従事者への攻撃として宣伝されている。同じことが「**国境なき医師団**」にもほぼ当てはまり、この団体は、いくつかのテロリストの占領する領域のアルヌスラの治療所（ほとんど外国のボランティアはいない）を、資金援助している。

こうしたつながりは、セクト間の処刑への参加も含めて、**Steve Ezzeddine** による「**ホワイト・ヘルメット——整形手術したアルカーイダ**」という最近の短いドキュメンタリーには明瞭に説明されている。 <https://www.youtube.com/watch?v=8aAaReVn2I4>

“ホワイト・ヘルメット” の背景については、調査ジャーナリスト **Vanessa Beeley** による「**“ホワイト・ヘルメット”：新種の傭われプロパガンディスト**」（Sept/2015, 21th Century Wire）などの一連の記事にも暴露されている。

<http://21stcenturywire.com/2015/09/01/white-helmets-new-breed-of-mercenaries-and-propagandists-disguised-as-humanitarians-in-syria/>

アメリカの政策と行動の矛盾は、最近、“ホワイト・ヘルメット”のシリアのヘッド Raed Saleh が、ある人道主義的な賞を受け取りに渡航したところ、アメリカへの入国を拒否され、イスタンブールへ送り返されたという出来事に現れている。理由はおそらく、Saleh のアルヌスラとの悪名高い関係であろう。米軍のトップ、マーティン・デンプシー元帥とジョー・バイデン副大統領は、2014 年、密接なアメリカの同盟国、サウジアラビア、トルコ、およびカタールが、シリア大統領アル・アサド政府の転覆を図って、ISIS や他の武装集団を財政援助していることを認めた。

付記（GR による）

ティム・アンダーソン教授から我々は、西側軍事同盟のプロパガンダ活動の分析を提供していただいた。この宣伝活動は、西側メディアだけでなく、企業基金からの援助を受けた、いわゆる NGO（複数）によって先導されている。

下にあげるのは、(偽)“シリア市民社会ネットワーク”の発表したコミュニケ（声明書）である。彼らは、反政府軍と言われるものが、ほとんど米 - NATO - イスラエルに支援されたアルカーイダ関連集団であることを認めようとしなない。

ロシア、イラン、およびヒズボラに支援されたシリア政府軍は、米 - NATO に支援されたテロリストに対する、大規模な反テロリズム作戦を行っている。

下に引用するのは、この集団の“国際共同体へのアピール”のテキストである。

この“国際共同体”と勝手に言っているのは誰のことか？

サウジアラビアやトルコは言うに及ばず、米、英、仏、独が、ほとんど 2 年にわたって、偽の人道主義的要請のもとに、日常的にシリア爆撃を行っている。

これらの NGO は、アメリカの外交政策を反映するものだ。彼らは、殺戮を行っているのはバシヤール・アル・アサドだと主張している。彼らは、シリアの市民社会を代表する者では決してない。

十分に記録された証拠によって、これらの殺戮は次のものによる——

1) ISIS を狙ったことになっている米主導の爆撃——これが住宅地域を含め、市民と市民のインフラを攻撃している。

2) 米 - NATO 連合によって装備と資金を与えられ、保護されている、ISIS とアルカーイダ関連の集団によって行われる残虐行為。連合の雇った宣伝屋が、これらテロ集団の中に混じって活動している。より最近では、アメリカが、アルカーイダ“自由戦士”を“訓練”するために、特殊部隊を送り込んだ。

この情報を広めよう。反プロパガンダが戦争の潮流を逆転させる強力な道具である。——ミシェル・チョスドフスキー、Global Research 編集者、May 1, 2016

“偽 NGO 市民社会グループ”の声明文面：

“我々は世界に見られながら死ぬがままになっています”

アレッポの人々は国際共同体の保護を必要としています。先週、アサド政権とその同盟国が、アレッポ全域の市民の住居や病院の爆撃をエスカレートさせ、その過程で 200 人以上の市民を殺しました。我々は、シリア市民社会と人道的グループを代表する者として、シリア一般市民の無差別殺戮を強く非難し、市民の保護を求めています。国際共同体の保護と、25 万の住民がまだ残っているアレッポ全域の、爆撃をやめさせる具体的な行動がなければ、アレッポが完全に破壊され、死者がさらに増える現実的な可能性があります。

国際共同体が我々の保護を優先させないのは、死刑の宣告と同じです。我々は世界に見られながら死ぬがままになっています。

シリア停戦協定にもかかわらず、25 分ごとに 1 人のシリア人が殺されています。アレッポでは 4 月 27 日水曜日に、シリア政権が Al Quds 病院を爆撃した後、アレッポの最後に残った小児科医 Wassim 博士を含め、少なくとも 50 人の患者と医療従業者と医者が殺されました。それより 2 日前の 4 月 25 日には、ホワイト・ヘルメット団の 5 人の救助隊員が、西アレッポ地区の Atareb の空爆で殺されました。この攻撃は、アレッポで 10 人の市民を殺したロシアの空爆の直後にやってきました。それより一週間前、シリア政権は、多くの女性や子供を含む数十人を殺した、Idib 地区の Maarat al-Numan の襲撃を開始しました。

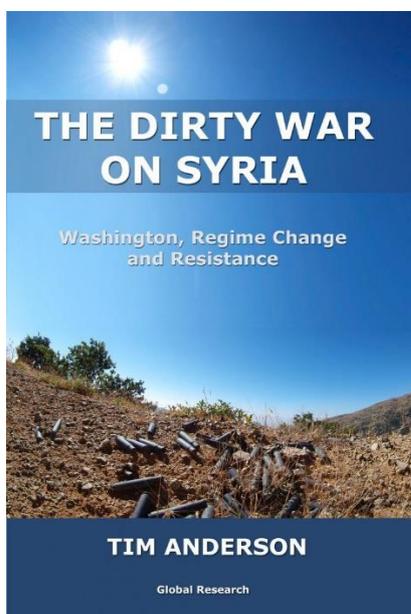
シリア政権は、市民や病院を故意に標的にしています。それは医療施設や学校、市場な

どを、市民を爆撃して服従させようとして意図的に破壊しています。シリア政権が空から殺すことのできない人民は、地上で餓死させようとしています。アサドの軍隊は、この国の市民の町すべてを包囲し続けており、彼らは人々を意図的に餓死させる方法を取り、救援輸送団から医薬品を没収しています。こうした包囲によって、シリア全土の18の都市や町が包囲されています。しかし、ただ一つの地域——Dier Ezzor——は空から物資の投下を受けています。数か月前から我々は、Homs や Hama など、すべての包囲された地域への、国際共同体による空からの救助を訴えています。我々の呼びかけは応えられていません。

我々は、国際共同体が我々を保護するのに取ることのできる具体的な手段があるのに、なぜ我々が死刑に処せられているのか理解できません。我々は国際共同体に対し、我々の保護を優先し、シリア全土の爆撃をやめさせる手段を講ずるように訴えます。我々のシリアを救う手を貸してください。これ以上、生命を失うことはできません。

署名者：

メディアと言論のためのシリア・センター、独立医師連盟、Baytna Syria、シリア市民社会組織連合、Zaytoon、〈シリアに平和と正義を〉団体、Dr. Amer Masri、Alaa Basatneh、SAY、Zaad、シリア - ウェルズ協会、Rethink Rebuild 協会、シリア連帯 (UK)、Scotland4Syria、Help4Syria、ノッティンガムシャー・シリア協会、Syrian Platform for Peace、Kurds House



ティム・アンダーソン著『シリアに対する汚い戦争』

シリアについての真理を知るためには、ティム・アンダーソンの本を、直接 Global Research にご注文ください。

<https://store.globalresearch.ca/store/the-dirty-war-on-syria-washington-regime-change-and-resistance-pdf/>